

竹内 愛二著

「専門社会事業研究」

住 谷 馨

戦後、わが国では社会事業の近代化と専門化が叫ばれ、従来の慈善事業から脱皮して、それと明確な一線を画せようとする社会事業科学理論の確立と制度化がおしすすめられてきた。本書は、わが国社会事業界の急激な発展変化にもとづいて、世界的な視角から近代的社会事業の科学理論と制度的職業的性格を解明し、今後の動向と存在意義を究明したもので、著者の多年にわたる社会事業研究の集大成ともいふべき豊富な内容をもっている。

社会事業は今日、世界共通の制度として普遍性をもっているが、その理論的根拠は一律ではない。著者は「人間の眞の福祉は、人間が人格者として遇されるということを描いて、実現・達成は不可能であるということ、即ち人間はその『第三の基本的欲求』ともいふべき、人間相互関係の円滑化を望む『社会關係的欲求』即ち『心理・社会的欲求』、或は『情緒的欲求』を充足されないで、その生活の福祉はあり得ない」とみて、福祉の実態的前提を人類共通の基本的欲求の充足と規定し、専門社会事業は、「これを個々の人間、諸種の集団、または地域社会等の現実に応用して、その実現を可能ならしめようとするもの」とされてい

る。著者が本書で強調し、目的とするのは、「社会事業の専門職業の性格について、社会学的に明らかにしよう」という発想から「人間のすべてに共通の緊張、葛藤、恐怖等を処理するという人類共通の目的のために、新しい人間関係の実現を企図」しようとする各国社会事業の普遍的・基礎的理論と技術的法則を究明したところである。

第一章「専門職業としての社会事業の世界的発展」はアメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の社会事業の歴史的な現状分析がなされ、第二章「専門職業の研究」では社会学的に専門職業の歴史的性格を考察し、第三章「専門職業の特徴」では一般職業と専門職の比較研究を行い、第四章「社会事業の専門職業の性格」では前章の専門職業分析からの概念規定を社会事業に適用し、社会事業が専門職業の性格をもつにいたったアメリカ社会事業の教育体制と組織を検討している。本章では Helen L. Winner, E. L. Brown, Frank Bruno, Charlotte Towle, Alfred J. Kahn など著名な社会事業家の社会事業の定義と、フロイドの精神分析を基礎としたケースワークの発展、Erich Fromm, H. S. Sullivan などの社会心理学の影響による社会学的社会事業の展開、グループ・ワーク、コミュニテイ・オーガニゼーション、行政・管理の理論水準とその成立過程の分析と紹介を行い、N. E. Cohn の「人間の要求に関する理念は多次的な、また相互関連的なものであって、部分化され、或は他から絶縁されたものであってはならない」という主張から、社会事業が多次的な性格をもち、社会学、文化人類学、社会心理学、精神医学など社会科学、自然科学

学各分野の応用科学として「人間科学」という統合された理論の確立を期待されている。著者は全篇を通じて、繰返し社会事業の基礎理論として今後は「行動科学」「人間科学」というべき人間の全人的理解のための科学が必要であることを力説している。

また、社会事業の「倫理的な性格について」はパースンズの行為型相変数のダイレンマを考察しながら、社会事業の道徳的価値志向性を客観化して、あくまで社会事業の実証科学としての限界を見極め、わが国の伝統的実情を批判し、その倫理的特性を究明されているのは興味深い。つづいて、第五章「専門社会事業の社会制度的性格」第六章「パーソナリティの研究」第七章「専門社会事業者の動機」第八章「専門社会事業における文化的相剋の問題」第九章「ケースワーク、カウンセリング、および精神療法の比較研究」第十章「専門社会事業の社会的声価」第十一章「事例研究——心因性気管支炎患者のためのケースワーク事例」という構成になっているが、著者は一貫して社会事業の専門化を社会体系系「役割・期待の人間関係に規定しようとする社会学の立論であり、精神医学の分野である心理療法や心理学から接近するカウンセリングが現在、わが国ではケースワークと混線したり、複合する傾向があるため、その境界線を三者の対象と対処方式を掘りさげることによって明確にし、相互の概念規定を行って質的な相違性共通性を解明されているのは、社会事業の技術的向上が望まれている現状において、とくに意義深いものといえよう。

著者が希望される「行動科学」「人間科学」の確立がどのように体系づけられるかは今後の課題であるが、統合的理論は専門分

化した各分野の原理的追究から必然化するのであって、現段階では社会事業のさらに分化した実証的研究が要請されるであろう。

なお、普遍的理論が歴史性、社会性、経済構造の相違する世界各地域に如何に適用反映するか、独自の権力構造との関係など本

書から除外されているが、社会事業を社会学的に体系づけられた本書の功績は大きく、故竹中勝男教授の「社会福祉研究」とともに社会福祉を学ぶものにとっての貴重な基礎的文獻といえよう。